市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	観光地等クリーンアップ事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ｱ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	本村には数多くの史跡や文化財があることから、各種イベントで使用する会場周辺や観光施設、観光ルートの清掃や花木の植栽など美化･緑化活動を強化し、島全体を一つの観光地として整備する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	－	32,711			
	(b)予算現額	－	32,711			
	(c)増減額(b-a)	－	0			
	(d)繰越額	－	0			
	A. 計(b+d)	－	32,711			
B. 執行済額		－	24,426			
うち交付金充当額		－	19,540			
次年度繰越額		－	0			
執行率（%）(B/A)		－	74.7%			
予算の状況の説明		･活動目標を達成しており、計画どおり執行でき適正であったと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
観光ルートの雑草の除去及び花木の植栽 植栽後の定期的な肥培管理の実施	目　標	（　除草･植栽等　）	（　除草･植栽等　）	（　　）	（　　）
	実　績	除草･植栽等 (15箇所)	除草･植栽等 (15箇所)		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	･計画的に活動目標を達成することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
美化緑化箇所:15箇所 (まつり会場:1箇所、フットパスコース:1箇所、集落内外:5箇所、フラワーロード:4箇所、他観光施設等:4箇所)	目　標	（　0箇所　）	（　15箇所　）	（　15箇所　）	（　　）	（　　）
	実　績		15箇所	15箇所		
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	･成果目標である１５箇所の美化緑化が図られた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	花木の成長促進を図るために、植栽後の施肥や水やり等の肥培管理を適切に行わなければならない。	植栽した花木の肥培管理はもとより、植栽した花壇等に雑草が繁茂し、景観保全に支障をきたさないよう草取り等の雑草対策を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・美化緑化箇所の継続した管理保全を図るとともに、適切な肥培管理を行い、観光誘客に繋がるよう努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,426	24,426	19,540	4,886	0

伊是名村
交付対象事業費
24,426千円

- 共済費 1,725千円 ― 臨時職員社会保険料
- 賃金 18,001千円 ― 臨時職員賃金
- 需用費 2,035千円 ― 消耗品及び燃料費
- 役務費 165千円 ― 通信運搬費
- 使用料及び賃借料 515千円 ― 重機等使用料等
- 原材料費 1,380千円 ― 種代、苗代等
- 備品購入費 605千円 → (株)トウエイ 605千円 ― エンジンブロア（5台）等

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	いぜな尚円王まつり支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ｱ
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

いぜな尚円王まつりにおいて各字･島外文化交流、マリンレジャー、スポーツ交流、各種体験プログラムを実施し観光客の誘致を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	7,340	7,000			
	(b)予算現額	7,340	6,000			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 1,000			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	7,340	6,000			
B. 執行済額		7,339	6,000			
うち交付金充当額		5,871	4,800			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：･活動目標の達成状況どおり実施し、予算執行も適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
いぜな尚円王まつりの開催支援	目　標	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　）	（　）
	実　績	開催支援	開催支援		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
･いぜな尚円王まつり各催し物として、日中は少年サッカー大会、世代間交流グラウンドゴルフ大会、伊是名島近海沖釣り大会、職域交流ハーリー大会、スカイスポーツ体験などが行われ、村民参加型のまつりとして、村民相互の親睦と連携を深める事が出来た。島外来場者ともサッカー大会や沖釣り大会、その他催し物をとおして交流が深められた。
･また、夜の部では地域の伝統芸能の披露や歌謡ショー、県内活躍ミュージシャンのステージなどで盛り上がり最後は二日間とも花火･レーザーショーを行うことができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
いぜな尚円王まつりの来場者数	目　標	（　）	（1,000人）	（2,000人）	（　）	（　）
	実　績		1,800人	2,000人		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
･「第１４回いぜな尚円王まつり」 平成２５年８月１０日･１１日開催。 島外来場者数は８月８日～１１日までの船舶旅客集計表を参照に約1，４００名及び本村人口約１５００名×０．４＝６００名　　計 約2，０００名の祭り来場者

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	「いぜな尚円王まつり」と題して祭りを開催しましたが、昼の部の催し物や、夜の部ステージイベントにおいて尚円王をキーワードにした取り組みや、プログラムが少ないとの意見もあった。 また、本村の人口から祭りへの来場者数には限りがあり島外来場者のさらなる増加を目指し、本村の観光産業の発展に寄与しなければならない。	まつり運営委員会・専門部会を頻繁に開催し活発な意見交換を行う。また、各市町村の祭りプログラム内容の調査や、イベント企画業者等を招いて本村の尚円王に関わる歴史・文化・自然等にあったプログラム等の計画が必要。

今後の取り組み方針

・平成27年度には尚円王生誕600年の節目にあたり、生誕祭を企画しており今年度はPRも含め尚円王まつりにて各種プレイベントを計画する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,000	6,000	4,800	1,200	0

伊是名村
交付対象事業費
6,000千円

→

補助金
6,000千円

→

いぜな尚円王まつり実行委員会
6,000千円

（運営費補助
（出演料、音響・照明、備品購入費、広告宣伝費、花火・レーザーショー等））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	赤土等流出防止対策事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ｶ 亜熱帯･島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

末端沈砂地で推積している土砂を浚渫することで沈砂地機能の回復を図り、また周辺雑木を除去し、土壌浸食防止のため天端を張りコンクリートすることで機能強化を図り、海域への赤土等流出を抑制し、自然環境の保全に努める。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	13,176	32,287			
	(b)予算現額	13,176	57,287			
	(c)増減額(b-a)	0	25,000			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	13,176	57,287			
B. 執行済額		13,175	57,287			
うち交付金充当額		10,539	45,829			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：･25年度においては、詳細設計による工事費が増大した為、それに伴う予算再配分となったが当初計画どおりの整備が実施出来た為、適正と考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
沈砂池に堆積する土砂の浚渫(33箇所、29,000㎡) 沈砂池周辺の雑木等伐開	目　標	(9,750㎡)	(33箇所 29,000㎡)	( )	( )
	実　績	9,750㎡	33箇所 32,846㎡		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：
･33箇所延面積32,846m2の末端沈砂池の浚渫を実施した。
･周辺雑木の除去と天端の張りコンクリートを併せて実施したことで、沈砂池機能の回復が見込まれた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
沈砂池に堆積する土砂の浚渫(33箇所、29,000㎡) 沈砂池周辺の雑木等伐開	目　標	( )	(9,750㎡)	(33箇所 29,000㎡)	( )	( )
	実　績		9,750㎡	33箇所 32,846㎡		
【参考指標】	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：
･33箇所延面積32,846m2の末端沈砂池の浚渫を実施した。
･周辺雑木の除去と天端の張りコンクリートを併せて実施したことで、沈砂池機能の回復が見込まれ、海域への赤土流出を防止し環境保全に努めた。

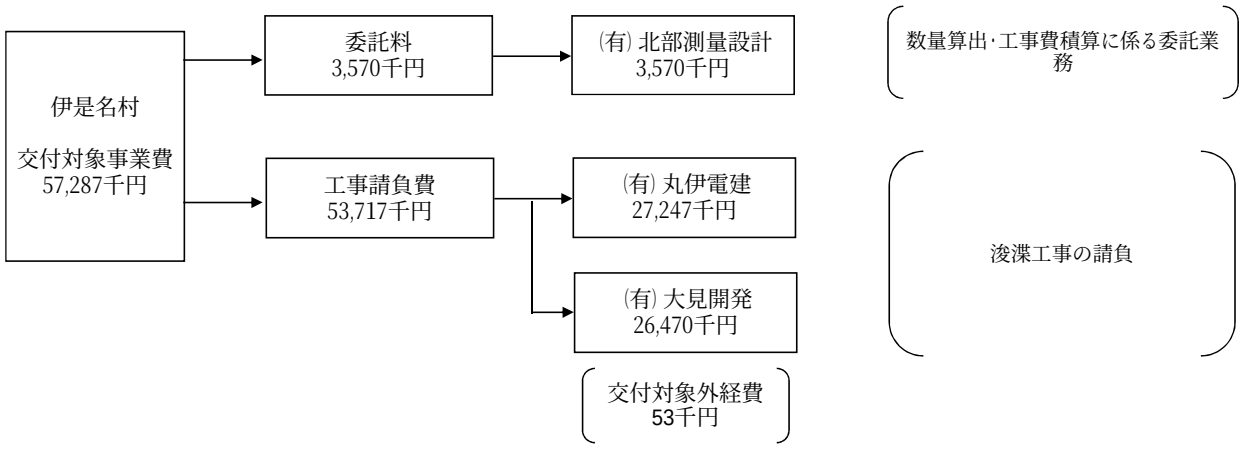
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	沈砂池機能強化のため周辺雑木の除去を実施したが、沈砂池周辺のネットフェンスに樹木が絡まり、更に台風等による強風で樹木が煽られたことによって、ネットフェンスが倒伏している状況があり、防護柵としての役割が果たされてなく、安全性の確保が保たれていない。	倒伏しているネットフェンスは、起こして修繕することで安全性の確保をたもつことができるが、修復不可能なネットフェンスは取り外し、別事業での撤去フェンスを設置することで侵入防止を図り、安全性の確保に努めた。

今後の取り組み方針

・経年による土砂を浚渫したことで、本来の機能回復を取り戻した。また周辺雑木を撤去したことで景観が保たれと考慮する。しかし、沈砂池内は裸地部分が残っており、いずれ雑木が繁茂し同じ現象が懸念される為、定期的な伐採処理、全面的な張りコンクリート打設による雑木繁茂防止等による沈砂池の機能保全を検討したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
57,340	57,287	45,829	11,458	53



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託において、見積徴収、精査し予定価格算出の上、指名入札を実施した為、選定方法は妥当だと考える。 ○工事について、指名競争入札の為、適正と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	いぜな８８トライアスロン大会支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ｱ 観光リゾート産業の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

いぜな８８トライアスロン大会は本村のメインイベント事業として定着しており、海外を含め日本全国より６００名の選手及び家族や関係者など２００名程が来島し、トライアスロン大会を盛り上げ、村経済の振興･観光産業の発展に寄与している。今後さらにリピーターの確保や、観光客を誘致促進するためトライアスロン大会開催に伴う受入体制の強化･運営費の一部を支援する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	－	10,000			
	(b)予算現額	－	5,000			
	(c)増減額(b-a)	－	▲ 5,000			
	(d)繰越額	－	0			
	A. 計(b+d)	－	5,000			
B. 執行済額		－	5,000			
うち交付金充当額		－	4,000			
次年度繰越額		－	0			
執行率（%）(B/A)		－	100.0%			

予算の状況の説明：･前大会が台風の影響で中止となったことにで大会運営予算の繰越などがあったため、当初予算より5,000千円の減となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
いぜな８８トライアスロン大会の開催支援	目　標	(　)	(　大会の支援　)	(　)	(　)
	実　績		大会の支援		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：･スイム2キロ･バイク66キロ･ラン20キロのミドルスタンダード大会として、全国各地より６００名余りの選手が参加した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
いぜな８８トライアスロン大会来場者数	目　標	(　)	(　)	(　1,000名　)	(　)	(　)
	実　績			905名		
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：参加決定通知書送付後のキャンセルが78名おり、併せて同伴応援者も減り目標を下回った。
･第26回いぜな８８トライアスロン大会　個人種目　539名　リレー種目　63名　　大会関係者　303名　計905名。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・今大会よりランコースを一部変更して実施し、参加者から好評を得た。 ・安心・安全な大会にすることが参加者のリピーターにも繋がると考えるので、第一に安全性を確保する。	・選手誘導看板の設置を充実させ、コースの安全性を確保し、さらに安心・安全な大会にするための体制を強化する。 ・レース後の選手交流会等、レース以外での付加的な要素で、参加者が楽しめるような大会にし、リピーター確保に繋げる。

今後の取り組み方針

・全選手が安心で安全なレース運びが行えるようレースデレクターや沖縄県トライアスロン連合、他のトライアスロン大会事務局との緻密な連携を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,000	5,000	4,000	1,000	0

伊是名村
交付対象事業費
5,000千円

→

補助金
5,000千円

→

いぜな88トライアスロン大会実行委員会
5,000千円

（運営費補助
（ふれあいパーティー出演料、音響・照明、備品購入費、広告宣伝費、コース誘導・安全強化備品））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途目的目的について、支出調書・書類により確認を行い適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	観光ガイドマップ事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ｱ
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

多様化する観光客のニーズに対応すべく、宿泊施設や観光名所の説明、写真などを盛り込んだ村の魅力をＰＲする伊是名島観光ガイド(マップ)を作成、印刷する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	―	1,200			
	(b)予算現額	―	1,200			
	(c)増減額(b-a)	―	0			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	―	1,200			
B. 執行済額		―	1,200			
うち交付金充当額		―	960			
次年度繰越額		―	0			
執行率（%）(B/A)		―	100.0%			
予算の状況の説明		・計画どおり執行し、適正であったと考える。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
観光ガイドマップを1万部作成	目　標	(　)	(10,000部)	(　)	(　)
	実　績		10,000部		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：・作成するにあたり、編集会議を計4回実施した。また、印刷会社との校正作業も随時行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
観光関係施設6カ所に1,500部配布・設置	目　標	(　)	(　)	(6カ所設置 10,000部)	(　)	(　)
	実　績			7カ所設置 10,000部		
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：・観光関連施設6カ所及び商工観光課事務所窓口に設置し、観光名所等をわかりやすく説明するために観光客に配布した。

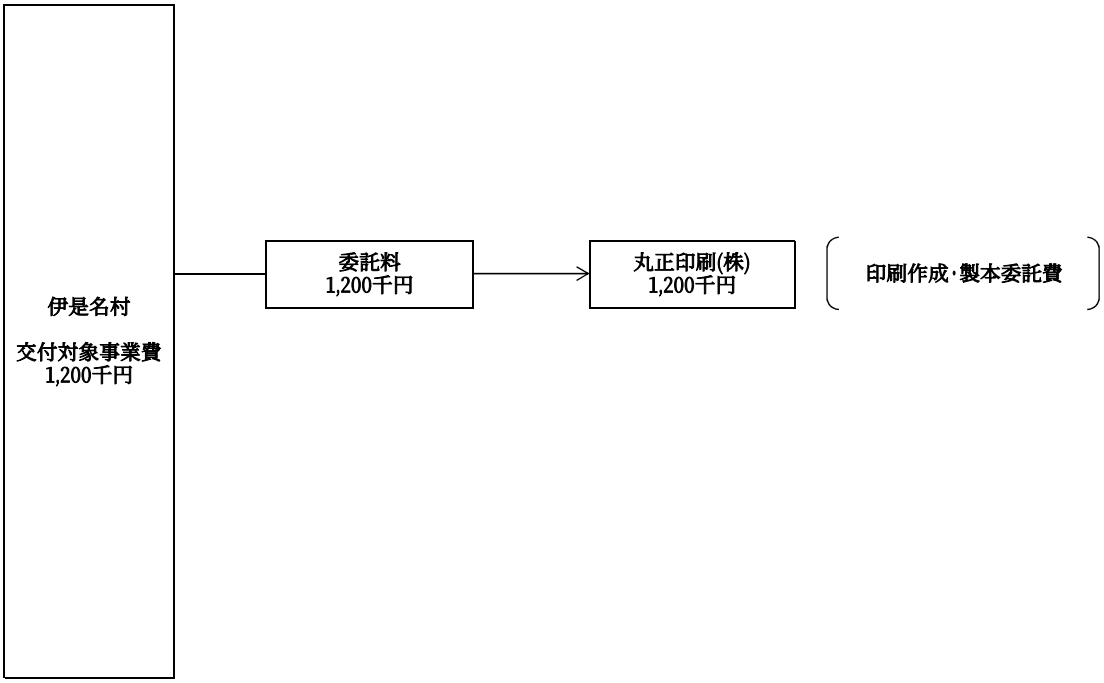
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・掲載記事の収集、編集会議を行うにあたり、全体的に専門的知識を有する人材が不足であった。	・観光ガイド養成講座等を実施し、伊是名村の知識を網羅し観光案内ができる人材を育成する必要がある。

今後の取り組み方針

・今後は、観光ガイドを養成し、ガイドマップを活用した観光案内はもとより、さらにディープな観光案内ができる体制を構築したい。また、外国人観光客に向けた多言語用のガイドマップもを作成していきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,200	1,200	960	240	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑧	環境に優しい村づくり事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-イ 適正処理の推進
担当部課名	建設環境課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	周囲が海に囲まれている本村の海岸に頻繁に漂着する海岸漂着ゴミを処理し、観光地としてのイメージアップを図るため、小型焼却炉や積込み機械、運搬車両の導入を行う。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	－	21,575			
	(b)予算現額	－	17,849			
	(c)増減額(b-a)	－	▲ 3,726			
	(d)繰越額	－	0			
	A. 計(b+d)	－	17,849			
B. 執行済額		－	17,849			
うち交付金充当額		－	14,279			
次年度繰越額		－	0			
執行率（%）(B/A)		－	100.0%			
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
小型焼却炉の導入 積込機械の導入 運搬車の導入	目　標	(　)	小型焼却炉:1基 (積込機械:1台) 運搬車:1台	(　)	(　)
	実　績		小型焼却炉:1基 積込機械:1台 運搬車:1台		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				
達成状況説明	・小型焼却炉、積込機械、運搬車を導入し、海岸漂着ゴミの適正な処理が図られた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
小型焼却炉等の導入により、島内での海岸漂着ゴミの処理を月平均0.5t程度処理することを目指す。	目　標	(0.5t)	(　)	(0.5t)	(　)	(　)
	実　績			0.5t		
【参考指標】	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					
進捗状況説明	・平成25年7月のリース契約後平成26年3月までの9ヵ月間で、月平均499kgを処理しており、目標をほぼ達成している。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・小型焼却炉については、焼却物の投入口が40cm四方と狭いため、焼却前処理（流木等切断）が必要であるが、平成25年度は設置場所である既存ごみ処理施設の管理者において前処理も対応していたため、焼却処理量が伸び悩んだ。	・平成26年度より海岸漂着ゴミの搬入時には、前処理を徹底するよう指導し、小型焼却炉の運転効率を上げるよう改善を図る。

今後の取り組み方針

・村民や海岸利用者に対し、海岸美化意識の啓蒙を図るとともに、海岸漂着ゴミの受入処理体制を強化することにより、環境に優しい村づくりを推進していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,862	17,849	14,279	3,570	13

伊是名村
交付対象事業費
17,849千円

- 使用料及び賃借料 5,598千円 → (株)トマス技術研究所 5,598千円
  - ・小型焼却炉の導入
    小型焼却炉（ﾁﾘﾒｰｻｰ）リース料
- 備品購入費 12,251千円 → 沖縄ふそう自動車(株) 3,172千円
  - ・運搬車の導入
    運搬車両（2tﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ）購入費
  - 交付対象外経費 13千円
- → コマツ建機販売(株) 4,305千円
  - ・積込機械の導入
    積込機械（ﾐﾆﾎｲﾙﾛｰﾀﾞｰ）購入費
- → (株)トマス技術研究所 4,774千円
  - ・小型焼却炉の導入
    小型焼却炉（ﾁﾘﾒｰｻｰ）建屋購入費

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○小型焼却炉導入においては、実績、知識等を勘案し選定しており、本事業の目的を達成するうえで妥当であったと考える。 ○運搬車・積込機械については、指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案のうえ選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	伊是名村自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-7
					交通･生活コストの低減
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

島と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、移動の大きな支障及び住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送コスト負担軽減を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	7,209	9,830			
	(b)予算現額	7,209	11,130			
	(c)増減額(b-a)	0	1,300			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	7,209	11,130			
B. 執行済額		6,934	11,006			
うち交付金充当額		5,547	8,804			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		96.2%	98.9%			

予算の状況の説明：･活動目標の達成状況どおり実施し予算執行も適正であったと考えてる。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
自動車航送コストの負担軽減	目　標	(3,500台)	(4,000台)	( )	( )
	実　績	4,894台	5,395台		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：
･5,395台と目標を上回ることができた。
･村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶において、車両航送運賃の助成を行ったことで、定期的に本島との往来が出来るようになり、教育･医療･福祉の充実促進、定住条件の向上に寄与した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
自動車航送コストの負担軽減	目　標	( )	(3,500台)	(4,000台)	( )	( )
	実　績		4,894台	5,395台		
【参考指標】	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：
･村内住民の沖縄本島との唯一の交通手段である船舶の車両航送運賃の助成を行い、村民の負担軽減に寄与した。今後も本事業を活用し、年間利用台数6,000台以上を目標に推進し、本村の更なる定住条件の向上を図る。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	土日、祝祭日等の大型連休になると、船舶の利用者が増え、乗客・自動車航送券発券所が混雑し船の定時運航に何度か支障をきたしている。 また、伊是名島への観光客の誘客を推進する上で本村に来島する利用者のコスト軽減の要望も出ているので関係機関との調整を行っていく。	負担軽減申請書を乗船チケット購入時に提出しなければならないが、発券所前にて申請書に記入する住民が多数おり、時間のロスに繋がることから事前に申請書を記載の上、チケットを購入するよう指導する。

今後の取り組み方針

・引き続き村民の負担軽減を図りつつ、島外から本村へ入村する観光客の負担軽減も検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
45,837	11,006	8,804	2,202	34,831

【住民キップ購入】

5m未満	4m未満
7,930円	6,020円
1,232台	4,163台
9,769,760円	25,061,260円

交付対象外経費（住民負担）
34,831,020円

伊是名村
【一般会計】

交付対象事業費
11,005,800円

1台当助成額　2,040円
対象車両台数　5,395台

（※特別会計へ繰出）

伊是名村
【船舶運航事業特別会計】

助成金（繰入）　11,005,800円
住民負担　34,831,020円

総事業費（車両航送費）
45,836,820円

車両1台当たり 2,040円 を助成

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○助成率は3割足らずで、7割強を受益者が負担していることから、負担関係は妥当であると考える。 ○費目・使途については確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	妊婦健診渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ 生活環境基盤の整備及び教育･医療･福祉における住民ｻｰﾋﾞｽの向上
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

村内には、専門の産婦人科医がなく本島の医療機関の利用を余儀なくされている。加えて、1泊2日の日数と経済的負担も大きい。そのような妊婦の保健指導の充実と安心で安全な出産を支援することを目指し、通院に要する渡航費･宿泊費を助成する。また、出産待機のため滞在した場合は1日3,000円の宿泊費を助成をする。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	469	1,797			
	(b)予算現額	469	1,097			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 700			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	469	1,097			
B. 執行済額		369	840			
うち交付金充当額		295	672			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		78.7%	76.6%			

予算の状況の説明：･経産婦の医療機関利用を南部方面で見込んで交通費を計上していたが、北部医療機関利用者が増えたことに伴い交通費の減が見込まれたので、当初予算を減額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
妊婦健康診査のために島外の医療機関に通院する妊婦への渡航費･宿泊費の助成	目　標	（助成の実施）	（助成の実施）	（　）	（　）
	実　績	52件	115件		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：･本島での宿泊利用者が増え精神的、経済的支援に繋がっている。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
妊婦健康診査のために島外の医療機関に通院する妊婦への渡航費･宿泊費の助成	目　標	（　）	（助成の実施）	（助成の実施）	（　）	（　）
	実　績		52件	115件		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：･利用状況は想定していた１３４回に近い１１５回の利用があり、本島に滞在し通院した件数も１回から２回に増えた。
･母子健康手帳を交付した妊婦の全員に助成事業の周知が図られている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・共働き世帯が多く健診時に夫が付き添い出来ないことが多いため、利便性を考えて妊婦が車を運転していくことがある。その車航走運賃の助成要望がある。	・妊婦のニーズに応えるために車航走運賃の助成をし、妊婦の利便性を考慮する。 ・知人等の家で宿泊する場合、定額の食卓料を助成し、経済負担の軽減を図る。

今後の取り組み方針

・近年共働きを余儀なくされている若年層の世帯の経済的負担の軽減。
→①夫が付き添う場合の助成をする。②車航送運賃の助成③知人等の家で宿泊する場合の食卓料の助成。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
840	840	672	168	0

伊是名村
交付対象事業費
840千円

→

補助金
840千円

→

妊婦
840千円

（船賃、車賃、宿泊費）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○母子健康手帳が交付されていて、村内に住所を有している妊婦が申請をする。 ○医療機関の受診証明書及び船賃の領収書・宿泊先の領収書の添付書類を確認し適正に支出している。 ○離島ならではの経済的負担に対し助成するものであり、受益者との負担関係は妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	人工透析医療受給者助成事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ 生活環境基盤の整備及び教育･医療･福祉における住民ｻｰﾋﾞｽの向上
担当部課名	住民福祉課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

本村は、専門医療施設がないことから、人工透析医療を受ける患者の通院の環境整備を図るため、通院に係る交通費及び宿泊費を助成する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	671	3,157			
	(b)予算現額	671	1,857			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 1,300			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	671	1,857			
B. 執行済額		377	1,548			
うち交付金充当額		301	1,237			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		56.2%	83.4%			

予算の状況の説明

･当初事業計画の内容に沿って実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
人工透析医療に係る交通費及び宿泊費の助成	目　標	（助成の実施）	（助成の実施）	（　）	（　）
	実　績	助成の実施(2人)	助成の実施(3人)		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

･事業実施によって受診者の経済的不安が解消され、治療に専念することができた。
･平成２５年度人工透析医療受給者：４名（１名本島で治療中）

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
人工透析医療に係る交通費及び宿泊費の助成	目　標	（　）	（3人）	（3人）	（　）	（　）
	実　績		2人	3人		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

･人工透析受給者に本事業の説明を行い助成を実施したことにより、３名の受給者が本事業を活用し、船賃･交通費･宿泊費の経済的不安の解消が図られている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	離島村であるため、人工透析の治療は島外の医療機関へ行かなければならない。そのため、日帰りは不可能。治療目的のために賃貸アパートの部屋代を助成することが可能か協議する。	隣村や遠方の離島村で同事業の実施に係る助成を行っている事例があるか確認し協議する。

今後の取り組み方針

・さらなる事業促進により、人工透析治療患者の負担を軽減することで、治療に専念することができ、また、治療目的のために賃貸アパートの部屋代を助成することが可能であれば、移動による心身的疲労も軽減することができる。今後も公平安心な補助を行うために、人工透析医療が必要になった場合の確実な情報提供、補助対象審査をスムーズに行えるよう、手続き方法についてわかりやすい広報をする。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,548	1,548	1,237	311	0

伊是名村
交付対象事業費
1,548千円

→ 補助金
1,548千円

→ 人工透析医療受給者
1,548千円

（①船賃
②車賃
③宿泊費に係る経費の補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○離島ならではの経済的負担に対し助成するものであり、受益者との負担関係は妥当であると考える。 ○費目・使途については事業目的から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	伊是名村人材育成推進事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	幼稚園、小学校、中学校の教育の質を高め学校教育を充実発展させるために教育指導コーディネーターを配置し、時代を担う児童生徒の人材育成に努める。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,200	2,400			
	(b)予算現額	1,200	2,400			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	1,200	2,400			
B. 執行済額		1,200	2,400			
うち交付金充当額		960	1,920			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		･当初の計画どおり執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
教育指導コーディネーターの配置	目　標	(　1人　)	(　1人　)	(　　)	(　　)
	実　績	1人	1人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明
･学校計画訪問や要請訪問による指導助言や各種研修会を開催した。
･統一テーマに基づく幼小中教職員の合同研修会を開催し教師の質に努めた。
･村営塾を継続開設し、講師へのアドバイスや直接児童生徒へ学習指導を行い学力向上に努めた。
･職場体験等の場の拡大を図り、児童生徒の就労意識の向上に努めた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
教育指導コーディネーターの配置	目　標	(　　)	(　1人　)	1人　)	(　　)	(　　)
	実　績		1人	1人		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明
･教員の指導力向上は児童生徒の学力向上に結びつくことから、教師に対しての研修、指導及び情報提供など学校教育の充実発展を図る取組を行った。
･保護者等からの相談に応じて指導助言を行った。
･村営塾を開設することにより、児童生徒の学習意欲が高まり学力の向上に寄与した。
･島外にまで職場体験の場を拡大することにより、勤労観･職業観が身につき、将来の目標を明確に持つことができた。

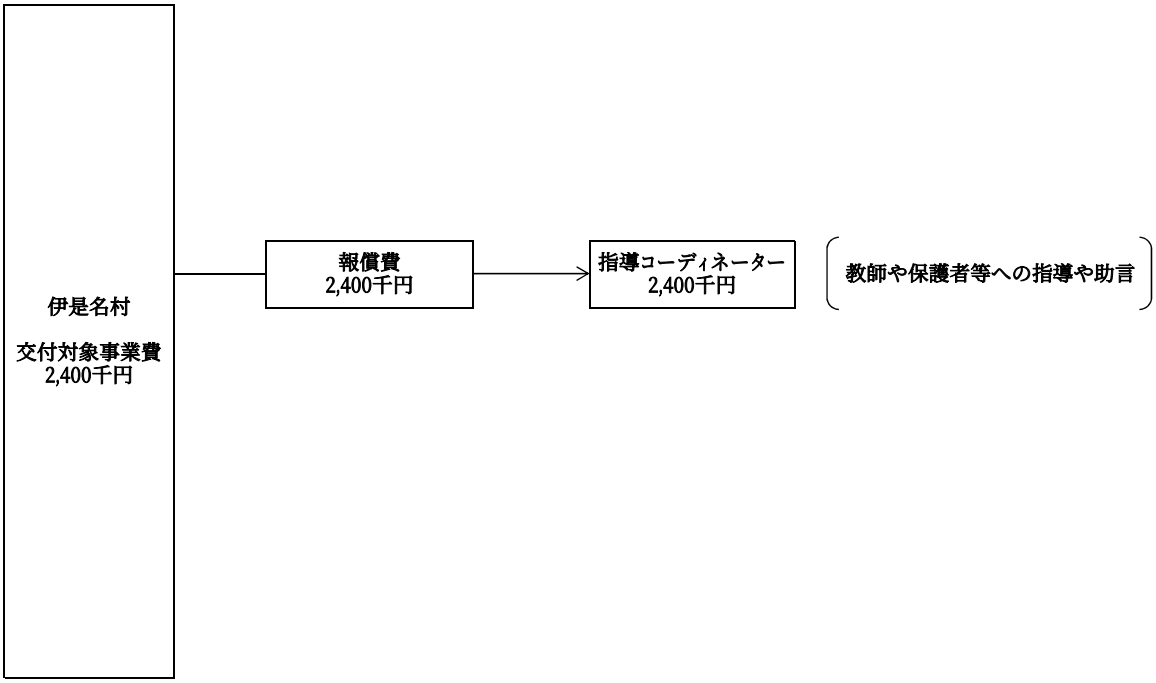
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・教員の指導力向上のため、教員個別の実態に応じたコーディネーターの指導の内容・方法の工夫等を行い教員の指導力の向上が図られた。 ・村営塾の充実を図るため、指導力のある講師の確保に努めた。 ・島外の職場体験受入事業所の拡充を行い、生徒の体験活動の場を広めた。 ・村内在住で指導コーディネーターになり得る人材がおらず、かつ住居の確保もままならない状況である。	・教師はどう関わっていくべきか、今の時代ならではの新しい考え方、発想を出し合い、そして実践していく研修の場を提供し、その成果の情報を交換、共有し指導力向上に結びつけてく。 ・児童生徒の学習意欲を喚起し、努力し続けることの大切さを感じさせる場や機会を充実させる必要がある。 ・仕事とは何か、何のために仕事をやるのか、なんで仕事をするのか、単に生きていくためのお金を稼ぐ手段なのか、あるいは出世したいためなのか、あるいは自分の目標があって、それを達成させるためのものなのか、など深く考えられるような体験活動にしたい。

今後の取り組み方針

・島外の職場体験を原則として、島内にない業種を体験させることにより、いろいろな職業観を持たせたい。
・人材を確保するために,島外にも広く募集をかけ、住宅の手配等の条件整備を進める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,400	2,400	1,920	480	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業目的達成の観点から必要な報酬費のみの支出であり、書類等により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	人材育成事業（日高小との交流事業）		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育振興課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	北海道日高小学校と伊是名小学校の交流事業は１９回を数え児童が沖縄との環境が異なる北海道での自然や文化気候そこで生活している人々との交流や体験を経験することで個々の個性や自主性を養うことを目的とする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,960	1,499			
	(b)予算現額	1,960	1,499			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	―	0			
	A．計(b+d)	1,960	1,499			
B．執行済額		1,903	1,499			
うち交付金充当額		1,522	1,199			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		97.1%	100.0%			
予算の状況の説明		・計画どおり執行されており、適正であると認められる。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
日高小学校との交流参加人数	目　標	（29人）	（22人）	（　）	（　）
	実　績	29人	22人		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	・沖縄とは異なる北海道の自然や生活に触れることで、子供たちの視野を広げ、自然体験や文化交流をとおして互いの地域を理解し、それぞれの地域の自然や伝統文化の大切さを実感した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
日高小学校との交流参加人数	目　標	（　）	（29人）	（22人）	（　）	（　）
	実　績		29人	22人		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・当初一方通行だった事業も日高小学校が島を訪れるようになり、相互交流へと発展、互いの地域の文化や自然に触れることで、情操教育の向上を図ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事業を効果的かつ円滑に行う上で、両校の連携体制が重要になる。北海道での日程及び交流内容等を双方で綿密に練り上げ事業に望むことが必要である。	・学校側と連携を図り、定期的な会議を開催し、事業の進捗状況及び内容等について確認する。

今後の取り組み方針

・事業の目的に沿って事業を継続していく。
・異文化交流で情操教育の向上を図るために実施している事業であることから、事前学習及び事後学習を徹底し、人材育成に繋げていく。
・児童がどのように感じたかを把握するためにアンケート調査を実施し、交流内容など改善に役立てていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,499	1,499	1,199	300	0

伊是名村
交付対象事業費
1,499千円

→ 補助金 1,499千円 → 日高小との交流 1,499千円（児童数：16人 引率者：6人）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○旅費については全額負担であるが、経済的不利な離島であること、また教育支援の観点から、受益者との負担関係は妥当であると考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-③	児童生徒島外諸教育活動支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-7 教育機会の拡充
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	離島である本村の児童生徒の島外での諸教育活動への派遣費を支援し、本村から本島への移動をスムーズに行えるよう実施する。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,236	3,134			
	(b)予算現額	1,236	2,834			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 300			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	1,236	2,834			
B. 執行済額		1,155	1,917			
うち交付金充当額		923	1,533			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		93.4%	67.6%			
予算の状況の説明		・フェリー欠航等により不参加になったことで、当初見込んでいた派遣回数より減少したため不要額が生じた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
島外教育活動への派遣児童生徒数	目　標	（交通費宿泊費の補助）	（65人）	（　）	（　）
	実　績	交通費宿泊費の補助	65人(延べ233人)		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				
達成状況説明	・児童生徒及び指導者が島外での教育活動参加のため、離島に限って発生する経費(船賃、宿泊費)を補助することで負担軽減が図られた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
島外教育活動への派遣児童生徒数	目　標	（　）	（233人）	（65人）	（　）	（　）
	実　績		278人	65人(延べ233人)		
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					
進捗状況説明	・これまで以上に大会に参加することができ、派遣生徒数も増えた。					

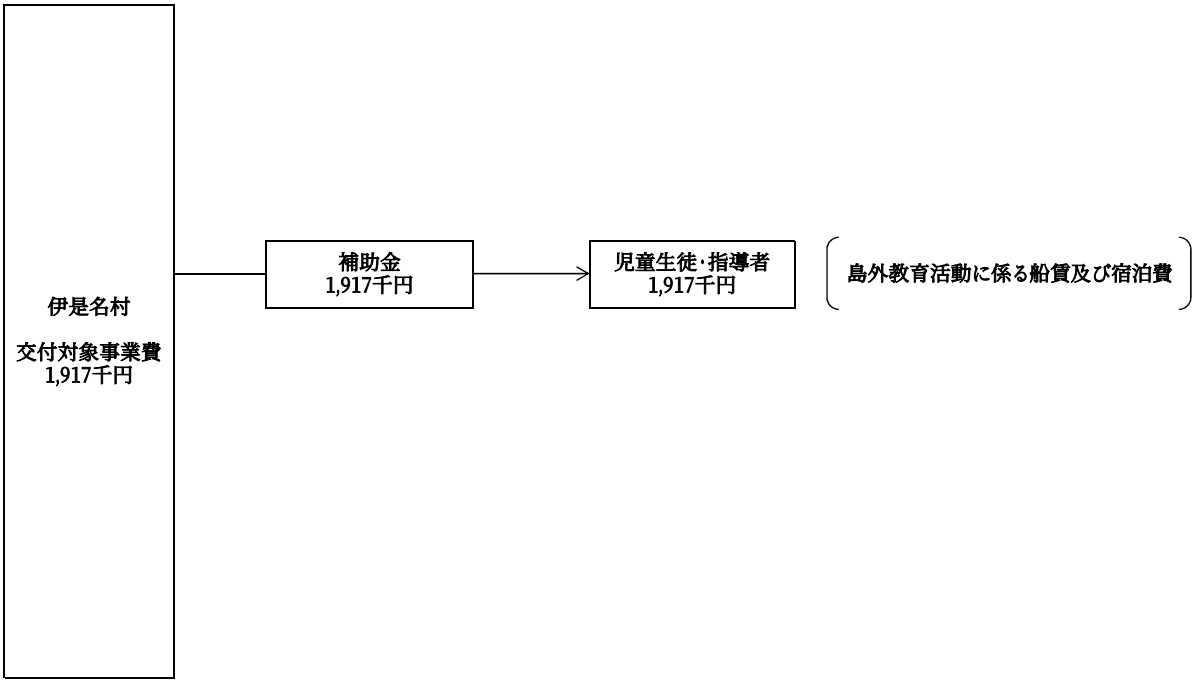
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・保護者の負担軽減が図られるとともに、児童生徒が実践を多く積むことによりメンタルな部分が強化された。 ・児童生徒を引率するには、試合状況などにより、監督・コーチだけでは限界がある。	・監督・コーチが試合や児童生徒の指導に専念し、よりよい指導体制を整えるために、本島同様に大人数での移動に必要なマイクロバスや運転手等を対象に含める必要がある。

今後の取り組み方針

・本事業は、保護者の負担軽減が図られるとともに児童生徒が島外での実戦を数多く積むことで競技力の向上に繋がり、運動部活動に意欲的に取り組む姿勢が育まれ児童生徒の健全な育成が図られると考える。よって、今後も継続していくが、マイクロバスの航送料及び運転手等に対する助成も実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,917	1,917	1,533	384	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○離島ならではの経済的負担に対し助成するものであり、受益者との負担関係は妥当であると考える。 ○使途については事業目的達成の観点から支等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-④	学習支援員配置事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	本村の未来を担う児童の人材の育成を図る観点から、小学校における教育活動の支援及び学習に遅れのある児童生徒への学習支援を実施する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	256	1,693			
	(b)予算現額	256	1,693			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	256	1,693			
B. 執行済額		71	1,397			
うち交付金充当額		56	1,117			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		27.7%	82.5%			
予算の状況の説明		・不要額が発生しているのは、当初は毎月20日勤務の賃金を見込んでいたが、休暇等により見込んでいた日数よりも少なかったことに伴うものであり、達成状況を鑑みて適正であると考える。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学習支援員の配置数	目　標	(　1人　)	(　1人　)	(　　)	(　　)
	実　績	1人	1人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：・学習支援員を1人雇用し、小学校における教育活動の支援及び学習に遅れのある児童の支援を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
学習支援員の配置数	目　標	(　　)	(　1人　)	(　1人　)	(　　)	(　　)
	実　績		1人	1人		
【参考指標】支援児童生徒の数	目　標	(　　)	(　2人　)	(　82人　)	(　　)	(　　)
	実　績		2人	85人		

進捗状況説明：
・学習支援員を1人雇用し、小学校における教育活動の支援及び学習に遅れのある児童の支援を行った。
・転入生がいたため、最終的には85人の児童生徒が教育支援を受けた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地域の人材不足により、支援員を確保するのが難しい。	・支援員を確保する事が難しい状況であるが大学等と連携し人材確保に努める必要がある。

今後の取り組み方針

・学習内容が十分理解できない児童及び行動に問題のある児童等への支援で、学級の落ち着きが図られ学習環境がよくなってきており、引き続き支援員を配置し、さらなる環境改善に努めたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,397	1,397	1,117	280	0

伊是名村
交付対象事業費
1,397千円

→ 共済費 209千円 → 学習支援員 209千円 （学習支援員社会保険料）

→ 賃金 1,188千円 → 学習支援員 1,188千円 （学習支援員賃金）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○応募者が1人のみであり、妥当な選定である。 ○事業目的達成の観点から必要な賃金及び社会保険料のみの支出であり、書類等により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑤	幼稚園預かり保育支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1) 沖縄らしい個性を持った人づくりの推進
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

離島である本村では、学童保育所がないため保護者が安心して仕事ができる環境整備として教育課程に係る教育時間終了後に幼稚園預かり保育の強化として嘱託保育士を配置する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	238	849			
	(b)予算現額	238	849			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	―	0			
	A. 計(b+d)	238	849			
B. 執行済額		177	779			
うち交付金充当額		141	622			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		74.4%	91.8%			

予算の状況の説明：・事業計画していた事業内容は実施できており、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
預かり保育士配置数	目　標	(　1人　)	(　1人　)	(　　)	(　　)
	実　績	1人	1人		
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：
・幼稚園教育の基本を踏まえ、地域の実情により幼稚園預かり保育の強化として嘱託保育士を1名雇用した。
・教育課程に係る教育時間終了後において、毎月１４名(園児総数名)の幼児の預かり保育を行い、保護者が安心して仕事ができる環境整備ができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
預かり保育を利用する幼児数	目　標	(　　)	(　15人　)	(　7人　)	(　　)	(　　)
	実　績		13人	7人		
【参考指標】	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：
・幼児総１４数名の内、月平均7名の幼児が預かり保育を利用した。
・今年度も、引き続き預かり保育が必要で有り、多くの利用者がいることが見込まれる。

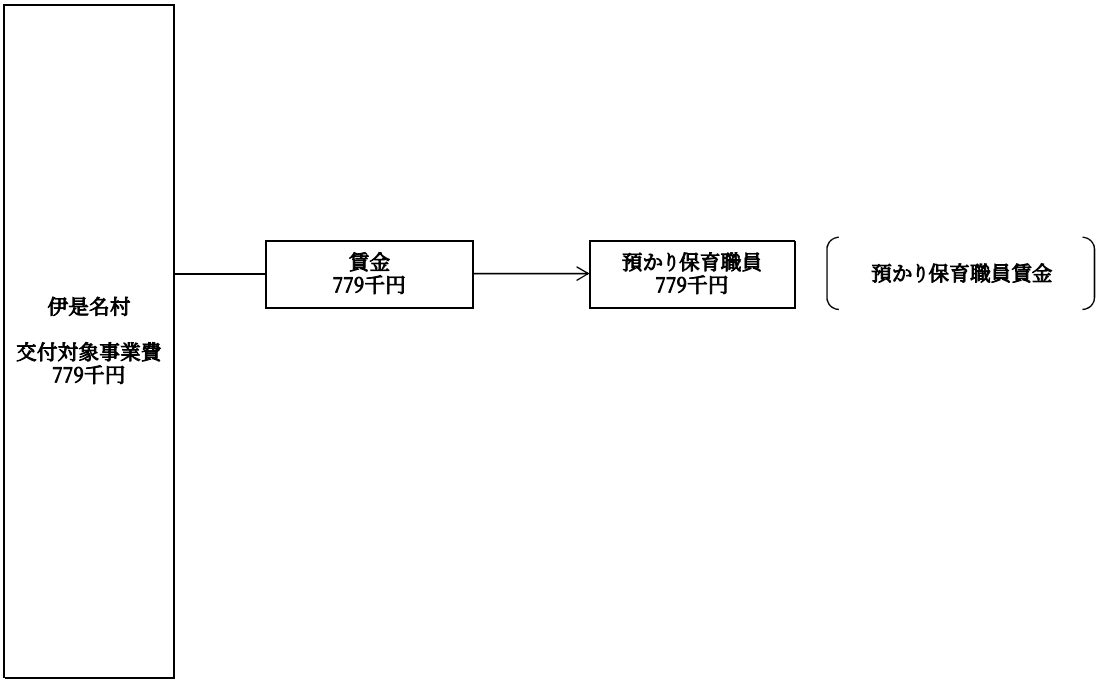
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・共働きの保護者が多く、教育課程に係る教育時間以後、幼児の面倒を見ることが出来ないうえに、当村には学童保育等がない。 ・村内在住で保育士免許を有している者が限られており、人材を確保するのに苦慮する。	・当村の実情より、預かり保育の実施が必要であると考える。そしてその為には保育士の雇用も必要であるが、保育経験者等の採用も検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・幼稚園教育の基本を踏まえ、地域の実情により幼稚園預かり保育の強化として嘱託保育士を雇用する。教育課程に係る教育時間終了後において、保護者が安心して仕事ができる環境整備を行う。
・人材を確保するため、島外にも募集をかけることを検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
779	779	622	157	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内在住の保育士免許を有している者を選定しており、妥当であると考える。 ○事業目的達成の観点から必要な賃金のみの支出であり、書類等により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑦	学校ICT推進事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-7 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	小・中学校の教育用パソコン、電子黒板、校内LAN等のICT環境を整備し、児童生徒の情報活用能力を育成するとともに「分かりやすい授業」を実践し、「確かな学力」を定着させ、将来を担う人材育成図っていく。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	－	19,795			
	(b)予算現額	－	29,851			
	(c)増減額(b-a)	－	10,056			
	(d)繰越額	－	0			
	A. 計(b+d)	－	29,851			
B. 執行済額		－	29,295			
うち交付金充当額		－	23,436			
次年度繰越額		－	0			
執行率（%）(B/A)		－	98.1%			
予算の状況の説明		・ネットワーク工事を備品購入費と一括委託することにより、経費削減と窓口を一本化することで不測の対応等の負担軽減が図られた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
電子黒板設置数	目　標	（　－　）	（小学校8台 中学校3台）	（　）	（　）
	実　績	－	電子黒板8台 PC55台		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・児童生徒の理解力を高めるため、小中学校のICT機器を導入し環境整備を行った。電子黒板総数8台・PC総数55台他。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
小中のネットワークの構築 電子黒板設置数	目　標	（　－　）	（　－　）	（小学校8台 中学校3台）	（　）	（　）
	実　績			電子黒板8台 PC55台		
【参考指標】	目　標	（　）	（　－　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・児童生徒の理解力を高めるため、小中学校のICT機器を導入し環境整備を行った。電子黒板総数8台・PC総数55台他。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学校現場においては、まだまだ電子黒板等は広く普及しておらず、関連したICT機器との活用方法等に課題が残る。 ・電子黒板等の活用を推進するためタブレット等の導入を視野に入れ、日常的なICT活用が望まれる。	・ICT機器の活用を促進するため他の先生の授業風景を参考にするなど定期的に勉強会を開催することで向上を図る。

今後の取り組み方針

・電子黒板・実物投影機・デジタル教科書・フラッシュ教材等を用いたコンテストを開くなど、また、外部から定期的に専門家を招聘して更なる習得・向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
29,295	29,295	23,436	5,859	0

伊是名村
交付対象事業費
29,295千円

→ 備品購入費
29,295千円

→ (株)オキジム
29,295千円

（電子黒板（8台）、PC（55台）等）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札を行うことにより、適正に執行できた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑧	学校外学習支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育振興課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)
事業内容	高校受験対策の一環として、生徒の学校外での学習を支援することにより、学校の授業でカバーできないきめ細かい学習を支援するため、村営の学習塾を開設する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	－	6,323			
	(b)予算現額	－	6,863			
	(c)増減額(b-a)	－	540			
	(d)繰越額	－	0			
	A. 計(b+d)	－	6,863			
B. 執行済額		－	5,585			
うち交付金充当額		－	4,467			
次年度繰越額		－	0			
執行率（%）(B/A)		－	81.4%			
予算の状況の説明		・一部、事業の手続きの遅れが見られたが概ね適正に執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学習塾の設置及び講師	目　標	（　－　）	（　3人　）	（　　）	（　　）
	実　績	－	3人		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	・学習塾を設置し、講師を3名確保できた。				

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
学習塾の設置及び講師	目　標	（　　）	（　－　）	（　3人　）	（　　）	（　　）
	実　績			3人		
【参考指標】学習塾利用生徒数	目　標	（　　）	（　－　）	（　65人　）	（　　）	（　　）
	実　績			65人		
進捗状況説明	学習塾を設置し、講師を3名確保できた。主に中学3年生を対象として1・2年生は希望者のみの予定だったが、全員が出席していた。					

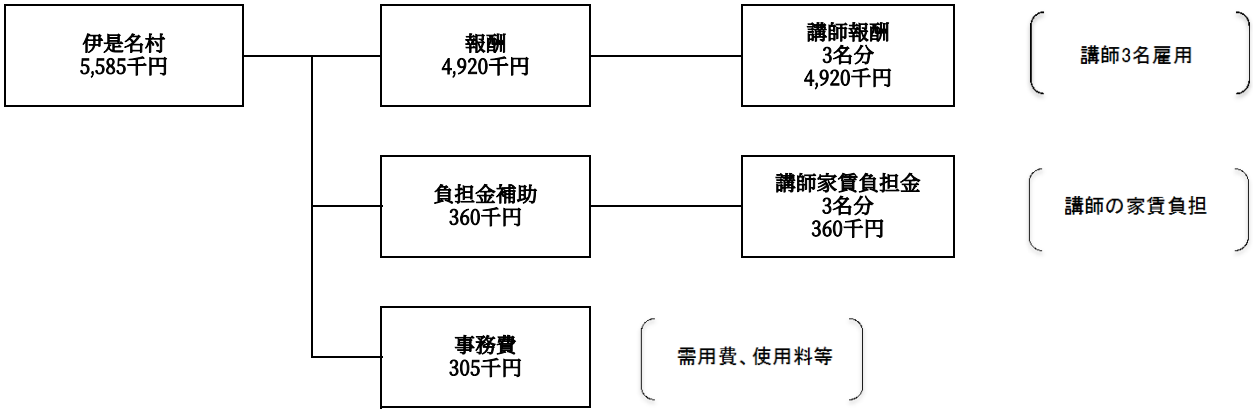
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・生徒一人一人の学力は差があるため、きめ細かな指導を行うには1学年に講師一人では厳しい面がある。 ・中学校では専門教科であるため、それぞれの教科毎の講師が必要であり、一人ですべての教科に対応することは困難であるため、引き続き複数の講師の確保が必要である。	・学力に差が見られることから基礎クラス・一般クラスなど班編制を行い、きめ細かな指導を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・高校受験対策として主に中学3年生を対象と考えていたが、今後は中学3年生のみだけでなく、1，2年生を含めた中学生全員を対象として継続し、各学年の中でも学力に合わせた班編制を検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,585	5,585	4,467	1,118	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業目的達成の観点から必要な支出であり、主に講師の報酬である。また島外出身の講師のため家賃の一部を助成し、事務費は塾に必要な経費の支出であり、書類等により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	伊是名村土づくり支援事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ｳ 亜熱帯性気候等を活かした農林水産業の振興
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

肉用繁殖牛の減少に伴う堆肥の原料不足を補うため、沖縄本島からの堆肥原料購入費用及び輸送費用を助成することにより、安定的な有機肥料の供給による土づくりの促進及び農作物の生産性の向上を目指す。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	6,197	16,793			
	(b)予算現額	6,197	14,112			
	(c)増減額(b-a)	0	▲ 2,681			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	6,197	14,112			
B. 執行済額		6,195	14,112			
うち交付金充当額		4,956	11,289			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：・計画どおり執行されており、適正であると認められる。

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
農家補助用堆肥の確保	目　標	(1,000t)	(1,000t)	( )	( )
	実　績	1,000t	2,000t		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：・本部町在の牧場から堆肥原料(中間品)を確保し、計画以上の2,000tの堆肥原料を導入した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(33年度)
農家補助用堆肥の確保	目　標	(0)	(1,000t)	(1,000t)	( )	(10,000t)
	実　績		1,000t	2,000t		
【参考指標】	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：・完熟堆肥ではなく堆肥原料(中間品)を導入したため、完熟堆肥より単価が安く、計画以上の2,000tの堆肥原料を導入できた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	2,000tの堆肥原料を導入したが、年度末までには、ほ場に散布できていない。堆肥原料の導入補助のため、必ずしも年度内にほ場に散布しなければならないとは考えないが、土づくりの促進による農作物生産性の向上が目的であるため、導入した堆肥はできるだけ早く散布する必要がある。 導入している堆肥は原料であり、完熟堆肥ではないため、発酵させる期間を考慮しなければならない。	事業実施を早めに遂行し、ほ場内まで堆肥が行き渡るように、年内までに導入するよう努める。また、ほ場内に堆肥を導入する時期は、大半がさとうきび畑のため、夏植え前の6月から8月、春植え前の2月から4月に集中する。堆肥はマニュアスプレッダによる散布であるが、村内に2台しかなく、さらに老朽化しているため故障も絶えない状況である。全ほ場内に散布するには相当日数を要するため、散布機械を導入し、効率化を図ることを検討する。 また、導入した堆肥は原料であり完熟堆肥でないため、発行させる期間を設けなければいけなく効率が悪いので、堆肥単価は高くなるが、導入してすぐに散布できる完熟堆肥の導入を検討する。

今後の取り組み方針

今年度は12月までに堆肥原料を導入し、春植えほ場及び株出しほ場を中心に3月までに散布できるよう努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,112	14,112	11,289	2,823	0

伊是名村
交付対象事業費
14,112千円

→ 補助金
14,112千円

→ 伊是名村さとうきび糖業振興会
14,112千円

（堆肥原料購入費に係る補助及び堆肥輸送運搬に係る経費の補助）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊是名村

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-②	伊是名村優良繁殖雌牛導入促進事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(1)-ｲ-(ｲ) 農林水産業の振興
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

本村における畜産業の振興を図るため、計画的に優良繁殖雌牛を導入する肉用牛繁殖農家等に対し、導入費用の一部を助成することにより、肉用牛の飼育頭数増加と農家経営の安定化に向けた取り組みを推進する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	0	10,800			
	(b)予算現額	0	10,800			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	―	―			
	A. 計(b+d)	0	10,800			
B. 執行済額		0	10,800			
うち交付金充当額		0	8,640			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		#DIV/0!	100.0%			
予算の状況の説明		・計画どおり執行されており、適正であると認められる。				

活動目標(指標)及び達成状況

H25活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・優良繁殖雌牛導入	目　標	(-)	(30頭)	( )	( )
	実　績	-	30頭		
	目　標	( )	( )	( )	( )
	実　績				

達成状況説明：・3農家が計画どおり30頭の牛を導入したことで、優良な繁殖牛の導入及び村内飼養頭数の増加が図られ、畜産業の振興に寄与した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H25成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(29年度)
・優良繁殖雌牛導入	目　標	(0)	(-)	(30頭)	( )	(150頭)
	実　績		-	30頭		
【参考指標】	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：・計画どおり優良繁殖雌牛30頭を導入したことで、畜産業の振興に寄与した。次年度以降も継続して計画的に実施する。

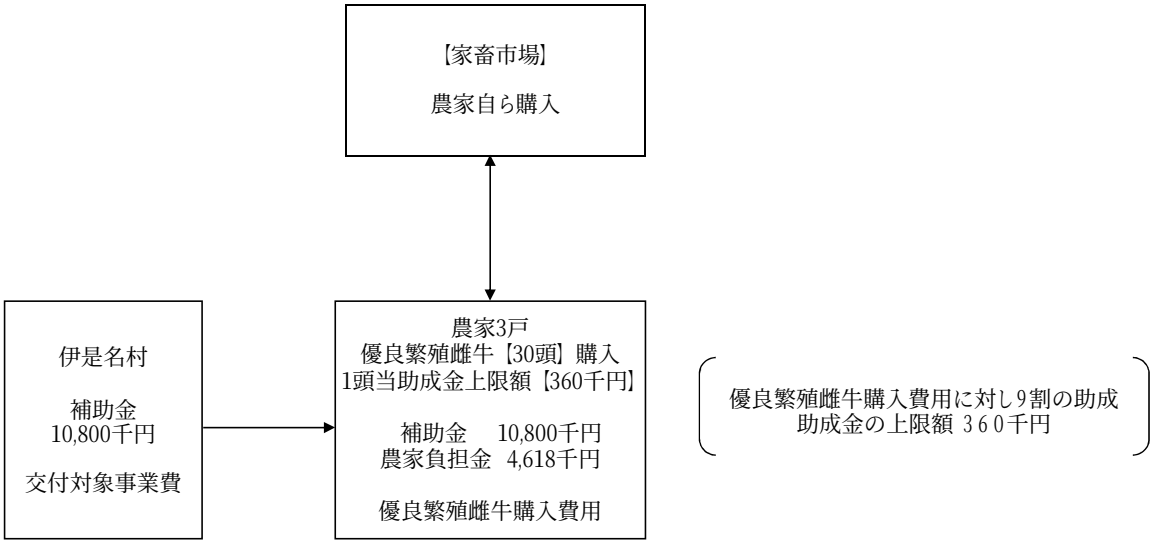
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	計画どおり３０頭の優良繁殖雌牛を導入したが、目的は導入した牛が計画的に種付けされ繁殖し、飼養頭数が増加していくことで、衰退している零細農家の経営安定化を図ることは基より、昨今の繁殖牛の減少に伴う堆肥原料不足を補うためでもある。 計画的に繁殖しているか、今後は導入した優良繁殖雌牛の動向を追跡する必要がある。	全国的な子牛の供給不足等により、昨年度と比較し１００千円程価格が高騰している状況である。市場の動向により子牛価格も変動することから、農家への助成金上限額も市場に合わせて変更する必要があると考える。 また、当事業で衰退している零細農家の経営安定化を図ることは基より、新規農家の受け皿の確保、担い手農家の確保等、当事業と併せて、本村畜産業の振興のための施策も必要と考える。

今後の取り組み方針

平成２６年度は平成２５年度と比較し子牛価格が１００千円程高騰していることから、農家助成金上限額を３６０千円から４５０千円に変更して助成し、５０頭の優良繁殖雌牛を導入する予定である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,418	10,800	8,640	2,160	4,618



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本村の現状の畜産業を鑑みると、受益者との負担関係は妥当であると考える。 ○費目･使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	